

令和6年度 大原和服専門学園

学校関係者評価報告書

1. 学校関係者評価の基本方針

学園教職員で構成する自己点検自己評価委員会が取りまとめた自己評価報告書をもとに、学校関係者評価委員会を行い、委員の多角的な意見をふまえ、より質の高い効果的な学校運営の改善のための具体案をまとめ、それをもとに組織的かつ継続的な学園運営の改善活動を行うとともに、学園の関係者に当学園の情報を開示し共有することで学園に対する理解と協力を促すこともあわせて目指していく必要がある。

その結果、当学園の社会での認知を上げるとともに当学園で学ぶ学生に対する教育の質の組織的かつ継続的な向上を実現し、学園の社会的な役割を高めていくことを学校関係者評価の基本方針とする。

I. 重点目標

●学生数が減少しているが、対策はどのように考えているのか

(学園の方針)

18歳人口は現在約100万人ほどだが、昨年度生まれた人は70万人を割り込み今後も減少することが確実であるため、多様な学生が入学できる学校づくりが不可欠であると考えている。

男子入学や留学生の受け入れ、学び直し層の受け入れ等多様な入学生の確保に結び付けていきたいと考えている。また、学生募集の強化のため専任の職員の採用も検討する必要があると考えている。

また、専門課程の学生が急激に増加することが難しいと思われるため、求職者支援訓練、国委託事業、修学旅行やインバウンド等観光視点での学園の認知活動など専門課程とのシナジーをふまえた新たな収益源を構築していく必要があり、2～3年程度の経営計画を定め対応していくことを考えている。

基準1. 教育理念・目的・育成人材像

●学生寮と学校給食を廃止した影響は1年を経てどうか。

(学園の方針)

令和6年に学生寮・給食制度を廃止したことで、移行期の段階では学生には負担をかけることとなった。今では慣れてきたこともあり問題として感じることはあまりない状況である。学園としては毎月の収支が改善されることで、学園の教育に集中して取り組める環境となり、学生数の増加に転じれば一気に学園運営が改善されるまで体制を整えることができた。

基準3. 教育活動

●講師の出産や病気のため休講になる場合があったとあるが、御校の指導している内容は特殊であるため代わりとなる講師はなかなか見つからないように感じるが、どのような対応を考えているのか。

(学園の方針)

おっしゃるように和裁・染色・織物などの技術に関して指導できる人材は非常に少ない状況である。講師の高齢化や女性の教員や講師も多いため出産、育児、病気などもあるため、対応を考えていく必要があると考えている。研究生や研究員制度を今まで以上に活用しやすい状況をつくり、講師が休む場合は助手として授業を受け持つことができるなど、これからの指導者の育成を進めて行く必要があると考えている。また求職者支援訓練など新しい事業に取り組む際も指導する人材の確保が必要となるため、近隣に住んでいる卒業生の掘り起こしも必要であり、今まで以上に広く卒業生ともつながる環境を整備していく必要があると考えている。

基準 6. 就職・進路

●和裁士として活動している卒業生の動向はどうか。今後の課題などあるのか。

(学園の方針)

ここ数年で就職して卒業生が開業目指す20才～30才台の卒業生から相談を受けることができていく。ものづくりマイスターへの登録を進めるとともに学園が推薦人となり支援している。また、固定収入が入ることも重要であるため指導者を求めている学校の紹介も行うようにしている。

一番は、和裁での収入の安定が重要であるが、流通や消費者の意識もあり単価を上げるには十分な環境が整っていないと感じている。そのため、1年前から学園が中心となり着物専門学校が連携した取り組みを行おうとしている。少子化の人材難の中、人材を輩出する専門学校が連携して業界への発信もおこない、環境を整えてきたいと考えている。

基準 9. 施設・設備

●気温が上昇してきており、建物の設備などで問題は生じていないのか。

(学園の方針)

本校舎が昭和55年の建築のため、様々な箇所での老朽化のために不具合が生じてきている。特に空調が水冷式の一体型のため、ボイラー、ポンプ、タンクなどが老朽化のため毎年、修繕をしながら使用している状況である。今後は、一体型ではリスクが高いため、順次、業務用エアコンを優先順位が高い箇所から使用できる補助金などを活用して入れ替えを行う必要がある。

基準 10. 地域にひらかれた学校づくり

●外部の団体と連携した着物の文化にふれる体験など行っているが効果は出ているのか。

(学園の方針)

卒業生が関わっている奈良県和裁技能士会の和裁体験教室は、年々受講生が増えてきており令和7年度にはもう1か所教室を増やし2か所にする予定である。また、和装教育の親子着付け教室も3か所から5か所に広がってきており、受講生も毎年100組を超える方々に受講してもらえるようになってきている。その他の活動も含めてこれらの活動により体験入学会等への参加や地域における様々な和文化の団体との連携などもひろがりつつあり、継続していくことで学園の運営にもシナジーが出てくるものと感じている。